

貝島・折戸地区のまちづくり

この地区で目指す姿

世界最先端の海洋研究や技術開発に触れながら、新たな仕事や産業が生まれる活力を実感することが出来るまち

実現に向けた主な取組

1. 貝島地区基盤整備

- 土地造成、道路・水道などの都市基盤を整備し、海洋研究・開発施設や関連企業の集積を進めます。

2. 駿河湾BXテストベッドエリア整備

- 清水港や駿河湾を活用し、海洋・空の最先端技術の実証実験を行う環境を整備します。

3. 駿河湾・海洋DX先端拠点化計画の推進

- 研究・教育機関や企業等との連携を強化し、DXを活用した海洋分野の研究開発、人材育成、新事業の創出を推進します。

4. 静岡市社会変革(BX)の推進

- 海洋分野の新たな技術やサービスの社会実装を出資と伴走により支援し、地域課題の解決と産業競争力の強化を図ります。

こんなことが実現されます

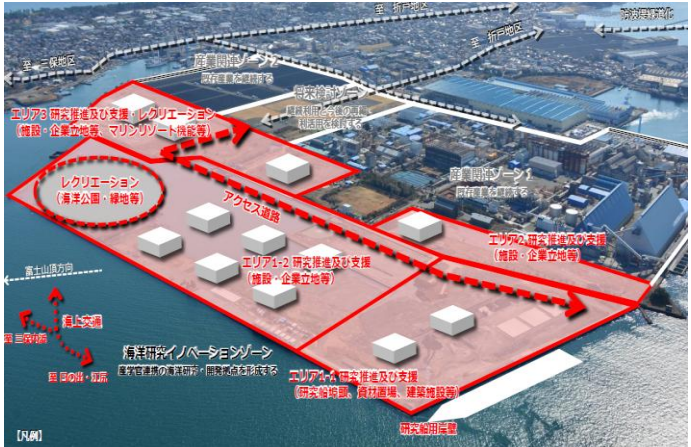
- 海洋分野の研究機関や企業が集まり、新しい技術やサービスが次々と生まれる環境が整う。
- 若者や研究者、企業人材が活躍できる場が広がり、地域に新たな挑戦やビジネスが生まれる。
- 富士山と海の景観を活かした滞在や交流の機会が充実し、地域の魅力向上につながる。
- 海洋関連産業の成長により、新たな雇用や投資が生まれ、地域経済の活性化につながる。



取組概要

貝島地区において、土地造成、道路・水道等の基盤整備を実施し、研究開発やビジネスの環境を整えることで企業や研究機関が集積し、新たな産業や雇用が生まれるようにする。

- 国際海洋研究・開発拠点化を実現するには、土地利用の将来像を描き、研究開発を下支えする土地造成、道路・水道等の基盤整備が必要です。
- 基盤整備により、研究船や研究施設等、研究開発関連施設の誘致・集積を進め、活発な研究開発やビジネスの場を創出するための環境が整います。
- この環境に企業や研究機関、人材が集積することで、新たな産業や雇用を生み出します。



※2036年度以降の目指す姿

今後の予定

	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
第一期工区	工事									
		一部供用開始	供用開始							
第二期工区	調査・計画	実施設計								
			工事							供用開始

駿河湾BXテストベッドエリアの整備

取組概要

清水港・駿河湾を最大限活用した実証実験のための環境(テストベッド)を整備することで、
新たな産業や雇用が生まれるようにする。

- 駿河湾や清水港など世界に誇る環境を有していますが、その強みを生かした実証実験の場が十分に整っておらず、新たな産業の創出につながっていません。
- 海や空で最先端技術の実証実験ができる環境を整備し、国内外の企業や研究機関が集まるテストベッドエリアを整備します。
- 企業や研究機関、人材が集積することで、新たな産業や雇用を生み出します。



今後の予定

	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
海の整備	海域調査	音響装置・ブイ設置								
	制度検討									
		拠点設計	拠点工事	供用開始						
空の整備	格納庫設計	格納庫工事	供用開始							
	出入口整備									

⑤経済・産業

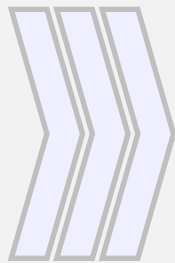
目指すべき未来像

地域の「稼ぐ力」が高く、魅力ある雇用があり、所得が高く、やりたい仕事でいきいきと働くことができるまち

現状と課題

- ・静岡市は大学や専門学校などの学生数が多いことが強みです。しかし、企業用地やオフィスの供給不足のため、企業の新規立地など産業の新陳代謝が停滞したことで、若年層への雇用創出が少なく、学生の市外流出が続いています。
- ・地域の「稼ぐ力」を高めるためには、企業誘致やスタートアップ支援、共創によるイノベーション創出、海洋など地域特性を活かした産業振興が欠かせません。労働力人口減少に対応し、多様な人材が働きやすい環境整備やDX推進による効率化を図ることも必要です。
- ・社会経済の変化に伴う商業環境の変化に対応し、中心市街地「おまち」の価値をこれからの時代に対応した形で高めるため、「職・住・福・商・学・遊」が近接するまちづくりを進めることが重要です。
- ・農業・水産業では担い手不足や高齢化が課題であり、有機農業や資源管理を進め、収益性を高める取組が必要です。

課題解決のための
具体的な取組



スタートアップとの共創による 社会課題解決の促進

★取組概要

革新的な技術やビジネスモデルを有するスタートアップと行政・地域団体等との共創を促進する「知・地域共創コンテスト」の実施などにより、静岡市が抱える複雑化・多様化した社会課題の解決につながる。



2024年度「知・地域共創コンテスト」の実施状況



中心市街地活性化推進事業への 補助金の交付

★取組概要

中心市街地活性化基本計画の進捗管理を行う協議会の運営や、まちなかでのイベント開催、調査活動等を支援し、市民が気軽にまちなかを訪れ、買い物や飲食、交流などを楽しみながら時間を過ごせる環境をつくる。



中心市街地のひとつ「けやき通り（葵区）」



協議会実施のスタンプラリーチラシ

駿河湾・海洋DX先端拠点化計画 の推進

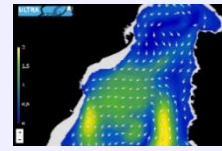
★取組概要

貝島・折戸地区

清水港・駿河湾の海洋環境と、研究・教育機関、企業等が集積する地域の強みを活かして、DXを活用した海洋の先端研究開発と人材育成を進め、海洋関連産業の発展と雇用の拡大を図る。



清水港



デジタル技術で駿河湾の海況を見える化・予測

⑤経済・産業

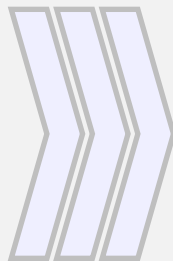
目指すべき未来像

地域の「稼ぐ力」が高く、魅力ある雇用があり、所得が高く、やりたい仕事でいきいきと働くことができるまち

現状と課題

- ・静岡市は大学や専門学校などの学生数が多いことが強みです。しかし、企業用地やオフィスの供給不足のため、企業の新規立地など産業の新陳代謝が停滞したことで、若年層への雇用創出が少なく、学生の市外流出が続いています。
- ・地域の「稼ぐ力」を高めるためには、企業誘致やスタートアップ支援、共創によるイノベーション創出、海洋など地域特性を活かした産業振興が欠かせません。労働力人口減少に対応し、多様な人材が働きやすい環境整備やDX推進による効率化を図ることも必要です。
- ・社会経済の変化に伴う商業環境の変化に対応し、中心市街地「おまち」の価値をこれからの時代に対応した形で高めるため、「職・住・福・商・学・遊」が近接するまちづくりを進めることが重要です。
- ・農業・水産業では担い手不足や高齢化が課題であり、有機農業や資源管理を進め、収益性を高める取組が必要です。

課題解決のための
具体的な取組



静岡市社会変革(BX)の推進

★取組概要

貝島・折戸地区

静岡市を実証フィールドとして、海洋分野の新技术やサービスの社会実装に挑戦する企業を出資と伴走型支援で支え、地域課題の解決や産業競争力を強化することで、海洋関連産業を発展させる。



清水港での水中ドローン 人工海藻による漁場造成
の実証実験



の実証実験

静岡型食と農システム推進事業

★取組概要

南沼上・麻機地区周辺

中央卸売市場の老朽化への対応や学校給食の運営効率化等の課題を解決するため、地域の生産・加工・流通・消費を一体的につなぐシステムを構築し、市民の生活に欠かせない「安全・安心で安定した食の供給」を持続可能なものとしていく。



静岡市中央卸売市場における競りの様子



学校給食センターにおける調理風景

有機農業の推進

★取組概要

南沼上・麻機地区周辺

実証ほ場の運用や量販店との連携、イベントでの周知を通じ、有機農業を一体的に推進する。また、循環型農業の実現に向け、低・未利用資源を活用した肥料製造に取り組む。これらの取組を通して、農業の環境負荷低減と収益性の向上を目指す。



葵区桂山での有機農作物
の実証栽培



有機農法で栽培した
ニンジン